

# 「らいとう」を記念する会ニコス

## 一步前進

櫛田 ふき

記念する会世話人代表

一九九二年十月二十日、平塚らいとうの遺品が二十一年ぶりにふるさと東京へ帰つてきました。らいとうの遺品を管理してきて下さった関西の友人に心からお礼をのべたいと思います。

らいとうを記念する会の発足から半年、おかげさまで北は北海道、南は沖縄にいたるまで、日を追つて賛同者はふえ、とりわけ若い女性の賛同が目立つていて、私どもは意を強くし励まされております。



左から小松、櫛田、城各氏  
—神戸での「偲ぶ展」で

います。「かくれた遺品を!」の訴えに、さつそく奥村家からはらいとうの「原爆ゆるすまじ」の絵日傘と先生愛用の錫の茶器が加わったことをご報告いたします。

## 「らいとう遺品」をお届けして

小松 とき

「平塚らいとう遺品保存会」会長

「平塚らいとうを記念する会」が発足し、長らくお預かりしていた遺品を納まるべき場所へお届けできることになって、こんな嬉しいことはありません。思えば

運び出す遺品三十八梱包  
娘の旅立ちを見送るがごと  
らいとうの面影もはやあともなし  
秋陽さす部屋にこおろぎの鳴く

## 二十年をふり返つて

—らいとう先生ありがとうございます—

婦人の家責任者 城 ゆき

一九七一年五月、らいとう先生が八十五歳で亡くなられた翌年春、私たちは全

一九七二年、神戸で「平塚らいとうをしおぶ展」を催した時らい、私どもは遺品のすべてを大阪吹田市の「婦人の家」にお預りして「らいとう遺品保存会」を発足。当時、「遺品保存会」の東日本会長の丸岡秀子先生と並んで西日本会長を負つて、城さんその他の方々との共同作業で当つてきました。

いま、念願の記念館設立をめざす「記念する会」の発足に出会い、遺品が真価を發揮する事業は、これからにかかると期待しています。

らいてうを記念する会の方々から、記

念館はおろか常設の展示コーナーさえ獲得困難ときき、迫害に耐えてたたかった先覚者たちが死してなお不遇な無念さを、嘆かずにはいられない。らいてうと熱い友情に結ばれ、女性史の開拓者とされる高群逸枝の場合も似たような経過だった。

それでも、一九八五年新築の熊本県立図書館は、熊本近代文学館を併設し、展示コーナーには、徳富蘇峰、蘆花、漱石、八雲、山頭火ら、熊本ゆかりの人々に混つて、逸枝の生涯や業績の説明・写真・著書なども展示されたときいていた。

ところが近年、中村汀女氏が亡くなり遺品なども多く寄贈されたところから、逸枝の展示と差し替えられたという。逸枝の常設展示も、これで全国ゼロになつた。図書館側の「同じ女性だから」という理由が、いうにいわれぬ後味である。

女性史研究のため、逸枝が門外不出の三十年を籠もり、生を終えた東京世田谷区の、通称、「森の家」跡は、区有地の

児童公園になつてゐる。私が訪ねた時、東北隅の彼女の小さな詩碑は、子供たちの靴の泥にまみれ、無惨な姿だった。地

価高騰の世田谷区で、この由緒ある区有地約二百坪は、見過しにできない好条件である。が、区の担当者は、そこに高群の詩碑があることさえ知らず、公園は転用できないということだつたが……。

異常な熱意でもない限り、お役人が面倒事を避ける理由など、どこにある。だから私は、あえて

夢物語を語りたい。

「森の家」跡に「女性

女性史研究家 堀場 清子 学センター」とよぶべき建物が出現し、女

らいてうと逸枝の記念室が常設され、女たちが集い、女の未来を語りあうことを。

世田谷区は、女性解放のシンボル・らいてうが愛し、永住し、逸枝がそこで女性史を開拓した、格別の土地柄である。その二つの意義を記念し、未来へ残す事業のために、世田谷区の女性の地域活動は、燃えあがらないのだろうか。いま、それは夢に過ぎないが、「無」を「有」に転化させるのは、いつも夢なのだから。

(前ページからつづく)

国に先がけて神戸で「らいてうを偲ぶ展」をひらきました。遺品九十四点をキャプションつきのパネル百四点で、先生の歩

きされた足跡をつづり、国際会館での五日間を成功させることができました。その準備期間中の活動の幅の広さと深さ、創

意にとんだ賛同のよびかけは、その後の大阪、京都、東京、名古屋、広島、浜松、沖縄(二回)西宮、青垣町(兵庫)の開催となりました。また日本母親大会(二回)や、たちはな学園祭、国会百年の記念行事、国際婦人年大阪の会十年祭などの行事にも「偲ぶ展」はくみこまれ、それが土地柄やイベントにふさわしい特徴がみられました。

このような活動を通し、これまでおつきあいのなかた婦人団体やサークル、著名人ととの協力関係もでき、「偲ぶ展」のあとには女性史や女性問題研究会が生まれ運動を発展させています。大阪で一九七五年国際婦人年を迎えた一月一日、全国で一番早く婦人年アピールが出せたことなど「らいてう展」の運動なしにはできなかつたと感謝しています。

## 女子大時代のこと

中鳥 邦

日本女子大学文学部教員

一九七一年出版の自伝「元始女性は太陽であった」の中で、日本女子大学校時代の思い出が語られている。父親の意見に妥協して、英文学部志望を家政学部に変えて入ったものの、その学部の学生として学ぶ姿勢は全くなく、聴きたい講義を聞き、読書を重ね、他は適当にさぼつ

て次第に禅にのめりこんでいく。創立者成瀬仁蔵の主張する、人としての自立の教育方針が学内にも反映していく、らいでうのような勉強態度を可能にしていたのである。これがなければ、恐らくらいでうの卒業はなかつたであろう。

同窓の学生の勉強態度や自治活動のあり方、寮の集団生活などについても厳しい批判を展開しているが、らいでう個人の知的・精神的な欲求にマッチしないといふことで一刀両断している感がある。

「記念する会」が発足して半年余り、記念館建設の夢は未だ遙かというところですが、当面、保存・管理の手だてもほぼつきましたのを機会に、ぜひ「らいでうゆかりの遺品・資料等の収集・保存」のお願いをしたく思っています。

遺品・資料収集のよびかけ 書、論文、エッセイについて書かれた研究集も収集したいと考

もしお手元に、らいでうの書簡や原稿、未発見の公刊物、愛用の品、あるいは青鞆、新婦人協会、消費組合、世界連邦建設同盟、戦後の運動など、らいでうのかわつた諸運動の資料などがありました

えています。これらも、まず所在をお知らせいただければ有難く存じます。らいでうを理解し、その志をうけつぐためにも、ご協力くださいますようお願い申しあげます。(米田佐代子)

當時の良妻賢母主義の教育を、中流階層の女子の理想像としてたたきこみ、天皇制家族国家の中核的家族像の中に入れた明治政府の教育政策や、家族共同体の中で成長し、結婚し、子どもを産み働くというのが一般的な女性のライフスタイルであった農村遺制の広範な存在、こうした中で、たとえ女子大学への進学を可能にした、恵まれた家庭であつても、自らの内的要求をつかみ、自覚し、それを生きることは容易ではあるまい。かといって、らいでうのその後の活動には、かつての日本女子大学の友人が何かとからまつてはいるし、道は違うと認めながらの交流がさりげなく続いている。たとえば、同窓会(桜楓会)から除名を伝えにきた寮生時代の同級生は、その後も日本女子大学に勤務しており、昭和の初めに自らの寮生を連れて、らいでうを訪ねている。寮生は思い出を「青鞆」をみせて頂き、婦人解放の一端を明瞭なお声で鼓吹なさる様子に魅了され、自分の中に新鮮な視野が開けてゆくようないでございました」と述べ、若い人びとに常に影響を与えるらいでう像を知ることができる。



賛同者（前号よりつづき）

順不同

櫛田ふき 小林登美枝 間島路子 木村康子  
坂井路子 松崎浜子 桑江千鶴子 全日本教職員組合  
北海道平和婦人会 奥村敦史夫妻 佐藤和子 米倉くに子 渡部雅子 らいてうの会  
山本美代子 浦辺史 伊藤吉紀 小林則子 山住正巳 落合恵子 山家和子 今中保子 小邨淑子 瀬長フミ 浜井菊子 梅原麦子 藤田えり子 福士薰 寿岳章子 山下照美 古屋春子 藤田たき つむぎの会 福田静子

事務局メモ



92年7月 リーフレットとニュース一号

の作成・発送。（返送されるもの多く正確な名簿づくりと賛同者の拡大必要）

9月 「平塚らいてう遺品保存会」か

らのかねてからの希望で、大阪・吹田市「婦人の家」より東京への移転を決定。

「保存会」から小松とき会長名で十万円の寄付あり。

10月19日 事務局から間島路子、立松

隆子が大阪へ。保存会の方々と共に日通美術品センターによる遺品の梱包、搬出に立ちあう。

10月20日 白井雅子、立松隆子が、次の移転先の憲政記念館で搬入作業に立ちあう。諸経費は五十万円。

10月現在 来春予定の憲政記念館における「近代日本の女性と政治特別展（仮称）」に出品のため、遺品は同記念館に「一時預け」として収納されている。

お知らせ

来春二月中旬から三月中旬にかけて、憲政記念館で「近代日本の女性と政治特別展」（仮称）が開催される予定ですが、他の先駆者の方々と共にらいてうの資料遺品も展示されることになっています。

「平塚らいてうを記念する会」のしおりの発起人の中に、関屋綾子、堀場清子様のお名前が欠落しておりました。事務局の手落ちをお詫びし訂正いたします。

すゑ 大島博光 岩崎春 松田麻子 三浦章子  
美子 野末悦子 三浦綾子 飯島ユキ 石浜みどり 富永和重 堤伸和 奥村淑 大原初子  
伊藤琴 芹沢美佐子 一条元美 八重川千枝子  
関口澄子 丹羽一二 乾範子 秋元信子 原田美代 大平清江 望月百合子 出田比奈子 御前茂樹 佐藤かく 山口照世（故人）宇佐見静子 加藤時子 内海ハル子 黒川恵子 古賀津子 柴田政利 千川あゆ子 柳田静江 染野光代 有吉多恵 今井朗子 田中美智子 高田千鶴子 山田あおい 浦辺竹代 全商連婦人協山村淑子 和田慶子 宇根内良子 神津信子 藤本美代 松田解子 広野クニ子 横井妙子 市川篤子 永井武教 かほる 高橋梓 増田れい子 多田崇子 平岡ふき子 内田礼子 住井藤本美代 松下安子 緒方和子 本木英子 北村実惠 木下安子 竹田スエ 桜井房 磯部しづ子 園田とき（つづく）